第２領域「学習デザインの理論と実践」

井口　浩

本共通必修科目は、夏期休業期間の７月 26 日、28 日、29 日の３日間集中して実施した。授業者は小久保、高木、一柳、兵藤、井口、受講者は 12 名であった。到達目標は、①教育基本法及び学校教育法に規定される各教科等と目的・目標・内容を体系的に説明できること、②子どもの学びに重点をおいた授業や学力の三要素の育成を目指した授業の構想・実践を通して、主体的で、生活につながる子どもの学びをデザインできること、である。

１．授業の概要

１）テキストから学習デザインに関わる理論を学び取る

市川伸一(2010)『現代の認知心理学５　発達と学習』（北大路書房）第１章を必読とし、高垣マユミ(2005)『授業デザインの最前線』（北大路書房）、高垣マユミ(2010)『授業デザインの最前線⑵』（北大路書房）の章を各自が選択して読むこととした。

１日目の１～４限は各自がテキストを読んで要約し、５限は小グループとなり要約した内容と学んだことを交流した。

２）授業構想とプレゼンテーションの準備

２日目は、まず国語科と算数・数学科を例に、教育基本法及び学校教育法に規定されている目的・目標・内容の関連と特徴を概観した。その上で、各自が１日目の学びを活かして授業を構想し、最終日のプレゼンテーションの準備を行った。単元レベルで目標の設定、計画の立案をし、本時の授業案を作成した。

３）授業構想のプレゼンテーション

１人当たりプレゼンテーションを 20 分間、質疑応答を 10 分間で進めた。どの院生も意図を明確にし、新たに学んだ理論に基づいて、自身の経験を省察して意味付けたり、授業の構想を説明したりしていた。模擬授業形式で指導案を提案する院生もいた。

２．次年度に向けて：授業改善のための検討の視点

理論と実践との結び付きについて、実感をもって検討できるよう、模擬授業の位置付け方を検討する。そのために、日程の組み方やガイダンスの仕方、テキストの選定、読書会の組織等の改善を図る。